

新型コロナウイルスによる子育て家庭の不安に寄り添う支援事業

NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん



目的

昨年の2月頃から世界的に危機的な状況に陥るほど新型コロナウイルス感染が拡大し、現在も多くの人々の社会生活に大きな影響を与えている。そのような中で、子育て家庭において子ども達の心の不安定さや遊びや体験活動の縮小、行き場がなくなることによってのメディア漬けの傾向に陥った春から夏までの自粛期間直後の様子を伺い、今後の子育て支援に活かしていく。

事業内容

①妊娠前から思春期までの子育て家庭における様々な変化や子どもの育ちへの影響及び必要となる支援の把握

新型コロナウイルス感染拡大による子育て家庭の不安と今後の課題アンケート調査を実施。まとめたものを回答いただいたご家庭や学校関係、行政に紙面で報告する。

(アンケート内容)

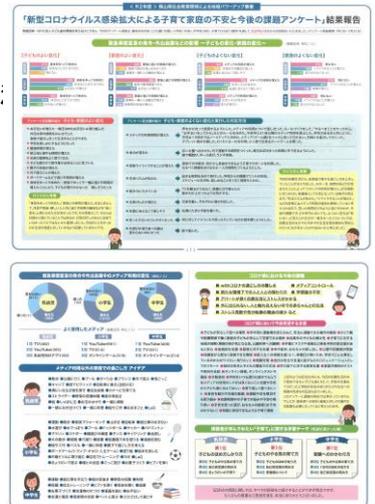
- ・各家庭においての子育て状況で変化したこと（子ども自身、家庭生活、学校生活）
- ・各家庭において困っていること
- ・自粛期間中のメディアとのかかわり
- ・メディア利用以外での家庭での過ごし方やアイデア
- ・コロナ禍における今後の課題 など

(実施期間) 令和2年7月1日～7月31日

(対象者) 備前市内の保育園・こども園(10園)、小学校(10校)・中学校(5校)

子育てひろば(1箇所)あわせ、2,751人に配布。回答人数は2,075人

(アンケート結果の報告) アンケートを集計した結果を紙面で配布(3,500枚)



②『各家庭での過ごし方アイデア集(仮)』の作成

子育てしている方の助けになるよう、家庭でできる遊びやお手伝い、3密を避けて過ごせるアイデア集(小冊子)を作成し配布する

実施して見えてきたこと

- ・アンケート調査を実施したところ、緊急事態宣言下における外出自粛などの影響が「よくない変化」だけではなく、「身体をゆっくり休めた」「家族との時間が増えた」をはじめとして、休息や家族・親しい人と共に過ごす時間ができたことを「良い変化」と感じられた方が多かった。その背景として、本当は日頃から望んでいるが日常の忙しさ等の理由でゆとりが得られない子育ての葛藤があるのではないかと。
- ・外出自粛によって時間のゆとりが生まれたものの、その時間が「メディア利用時間の増加」につながり、保護者としても不安に感じていることが分かった。
- ・子どもが登校できないことは、「学力低下」だけの問題ではなく、人同士が直接かかわる生の体験(コミュニケーション)不足になることを心配する家庭も多かった。生の経験を重要なこととして捉えていることがみえた。
- ・アンケート集計結果からも、大人も子どもの遊びへの関わり方を模索している様子があり、環境づくりを行うためのヒント集の必要性を感じた。今回アンケート協力頂いた備前市内の学校・園などにはこの小冊子を配布するが、今後子どもの遊びへの関わり方など学び合える機会があれば、この小冊子を活用していく。

今後に向けて

- ・今回の緊急事態宣言の発令・外出自粛などのことをきっかけに、各家庭が本来望んでいる生活スタイルに近づけるよう支援していきたい。そのためには、各家庭で起こっている変化や困り事に目を向けて寄り添いながら、適切な方策を見出していくことが求められる。
- ・家庭での過ごし方を工夫することで生まれた「ゆとりの時間」を、メディア接触以外の過ごし方(生の体験など)が出来るよう提案していき、未来ある子ども達の健やかな心とからだの成長を応援していきたい。